

Volume.039



徳山大学校友会誌

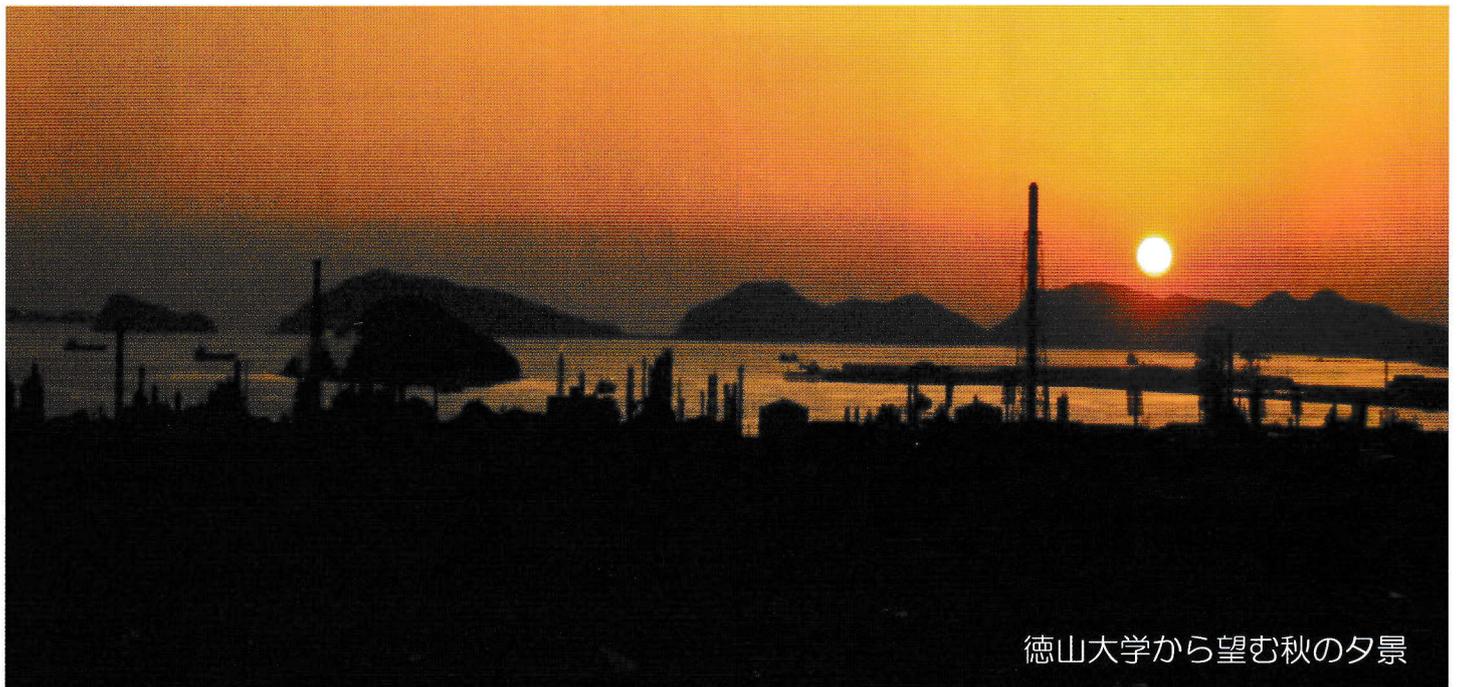
とくだい

発行所
徳山大学校友会

〒745-8566
山口県周南市学園台 徳山大学内
TEL&FAX 0834(28)7454

発行日
平成27年3月20日

発行責任者 國廣 憲
編集責任者 野村 哲也



徳山大学から望む秋の夕景



春、学生食堂からの桜風景は地域の風物詩となり、満開の時期には学外からも多くの方が訪れます。人工芝のグラウンドや体育館では学生が一生懸命クラブ活動に励んでいます。

秋には瀬戸内の小島と工場地帯の中に美しい夕陽が沈みます。

徳山大学から見ることのできる心なごます風景です。

(撮影：中村道陽)

平成26年評議員会
開催される

平成26年度評議員会が6月28日周南市内のホテルサンルート徳山で開催されました。

まず國廣会長より、理事会報告として大学の現況について学生数や財務状況などについて話されました。この中でも、留学生への対応において特に就職については重要な課題となっていることなど述べられました。

このあと平成25年度事業報告・決算報告、平成26年度事業計画・予算について審議され、承認されました。評議員会終了後、岡野学長より大学の最近の教育における取組や、状況についてご報告をいただきました。また入試室長村瀬氏より入試制度などについて説明がありました。このあとの懇親会では、大学からの教職員をゲストにお迎えして、楽しい交流のひとつが送られました。



鹿児島県における第1回同窓会
開催される



平成26年11月29日鹿児島市内のホテル・レストラン鹿児島において卒業生有志による、初めての鹿児島県での同窓会が開催されました。

この会は、宝富元さん（7期卒）の働き掛けで行われ、県内より四名の方が参加されて実施されました。大学からは三宅剛学生支援センター長に参加いただきました。お互いに発対面でありましたが、和気あいあいとした雰囲気の中で進められました。

この同窓会は参加者の話し合いにより徳山大学桜島会と命名され、今年の9月には第2回目の会合が開催されることとなりました。鹿児島県内在住の方は是非ご参加ください。



山口県豪雨災害復興支援
チャリティコンサート開催

平成26年3月9日「フォークコンサート元気です2014」が周南市民館大ホールで開催され約四五〇名の聴衆がフォークソングのスタンダード曲などを楽しみました。

このコンサートは校友会が地域貢献活動として開催しているものであり、今年は山口県豪雨災害復興支援チャリティコンサートとして実施されました。

コンサートは卒業生で宇部市在住のシンガーソングライター永谷青空さん（27期卒）を中心としたバンドの素晴らしい演奏で名曲がつつられ、聴衆も聞き入っていました。

今回の会場内での募金と入場料・広告などの収益の中から十六万九千七百九十二円が山口市役所へ寄付され、井上幹事長より届けられました。



【徳山大学のいまの教育取組】

海外就業体験プログラム（台湾）とアクティブラーニング

経済学部 教授 紙矢健治
実施期間 2014年9月7日～13日

I. 実施の目的

今回4回目を迎える海外就業体験プログラム（台湾）は、本学が推進する「アクティブ・ラーニング（AL）」の「サービス・ラーニング」の一環です。また、今回は、新たに「地域課題解決型授業（PBL）」として、株式会社西京銀行地域連携部の協力を得て、周南市を中心とする山口県内の事業所の産品を台湾に販売する試みを行いました。同行は今年度、山口県から「地域人づくり処遇改善支援事業」を受託し、山口県の地域資源の販路開拓の持続的実施に向けた研修交流事業を進めるにあたって、台湾でのプログラムを担当する紙矢教員に同受託授業のアドバイザー就任を依頼し、具体的に同行のネットワークを通じて地域課題を把握し、担当教員の教育シーズや海外ネットワークを連携させ、参加学生が海外セールスの実践を学ぶ内容としました。なお、本学と西京銀行は、すでに包括的な連携協定を締結しており、今回の連携もこの協定に基づくものとして実施したものです。

II. アクティブラーニング(AL)の重要な役割を持つ「海外就業体験」

前出の「アクティブ・ラーニング（AL）」とは、従来の「座学」ではなく、教室・大学を出て、国内外で行う実践型学修プログラムです。徳山大学では、「EQ」「教養ゼミ」「地域ゼミ」「専門ゼミ」に加え、この海外就業体験プログラムをはじめ、「外国語学修プログラム（Total-immersion program in Australia）」、「海外交換留学プログラム（台湾・韓国）」などを実施しています。本学では、「外国語学習プログラム」を「OSP（A）」（Overseas Study Program）、「海外就業体験プログラム」は「OSP（B）」に分類し、正式科目として2～4単位を認定しています。旅行費用については教務部予算による補助を行い、参加学生の負担を可能な範囲で軽減する措置をとっています。

III. 実施内容について

今回の海外就業体験プログラムでは、(1) 山口県空港セールスアクション、(2) 山口県産品販売アクション、(3) 山口県インバウンド誘致アクション、(4) 山口県企業・台湾企業間アテンドアクションを行いました。訪問先は遠東航空本社を含む14か所にもおよび、大変充実した内容となり、教育機関が実施する教育プログラムとしては、地元課題解決のための具体的成果が複数得られました。

このことが「アクティブ・ラーニング」の大きな意義と言えるでしょう。

IV 今回の成果について

金融機関と共同により県内の同行の中小企業を中心とする顧客様の具体的なニーズを本学教員のシーズを通じて応える、それをトップセールスを見る研修として参加学生に体験させることができました。これまでの「参観」型研修を「能動・実践」型研修に切り替えられたことは産学連携の大きな成果であったと言えます。

V 今後の展開について

OSP（B）としての前期・後期一年間の実施であるので、引き続き西京銀行地域連携部の協力を得ながら、事前授業を通じて、地域課題としての県内中小企業のいくつかの具体的なニーズをターゲットとして、学生の能動的参加→課題解決の方策の立案→実施の順序で実施していきたいと思っております。学生にどこへ行ってもすぐ課題把握→解決の能力を身に付けさせられるようにと願っています。



(写真1遠東航空本社での筆者プレゼン)



(写真2遠東航空本社前での記念撮影)

懐かしのキャンパス～ 昭和60年前後の様子



かつての学生食堂

やかんにお茶が入れてあり、食券をおばさんが販売し、喫煙OKの食堂でした。昼には長い行列ができていました。



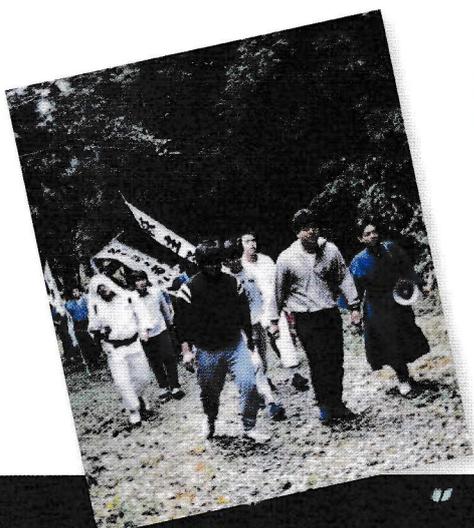
10号館 100円喫茶

今は知財館の教室となっていますが、当時学生の憩いの場でした。



6月祭

毎年6月にミニ大学祭として新入生も学生生活に慣れてきたこの時期に野外ステージを中心に開催されていました。短大と合同でのミスコンテスト企画も大いに盛り上がりました。



維新の道 (萩往還道強歩大会)

山口から萩までの街道、約35キロを学生教職員有志で踏破していました。

写真下は佐々並公民館前で午後のスタート前の集合写真。

懐かしい顔がいくつも。



● とくたい恩師インタビュー ●



今年創立45年となる徳山大学には、多くの先生方がいらっしゃいますが、草創期を知る先生方はその中の5分の1程度の方です。あと5年以内にはこれらの先生方も定年退職となり、総ての先生が入替わる時期を迎えます。ここでは、草創期を知るおふたりの先生に当時の思い出と今の思いをお伺いしました。



兼重宗和 先生

先生の本学での簡単なプロフィールをお願いします。

ー1期生として徳山大学を卒業後に、大学院へ進学してその後1977年に本学に助手として入社し以来、本学一筋に学生の指導を続けています。

創立時の心に残る出来事は何ですか？

ーあの当時はよく学生と勉強会で九州などにも出かけていました。今でいうところのフィールドワークを良く行っていました。そんな学生との交流が懐かしく思い出されます。

学生に対して、あの当時と、いま最近感じられることは何ですか？

ーあの当時は個性をもった学生が多かったですね。最近は教職に就く学生が増えて嬉しいですね。

大学教員として良かったと思われるのはどのような時ですか？

ー卒業生が久し振りに訪ねてきてくれることや、学校訪問をした際に教員で活躍している卒業生に会うと、自分もまだまだ頑張ろうという気持ちになります。これからも全力で大学生に向かっていきたいと思っています。

ーありがとうございましたー



地歴研究会のメンバーと

先生の本学での簡単なプロフィールをお願いします。

ー1975年に徳山大学に事務職員として採用されて、学生募集活動など行っていました。翌年、教員採用となり授業の他にも、学生主事として永く学生相談業務も担当してきました。

授業の中ではさきがけの取り組みをされていました。

ー教養ゼミでの実践教育活動（今も継続中）は当時としては非常に珍しい授業で地域課題に学生自らが取り組むといった内容で、具体的には独居老人宅訪問、小学校の留守家庭学級のサポート、福祉施設の訪問、全盲の方を講師にお迎えしての講演会など行っていました。

そして授業のあとは課外活動ですが、バスケットボール部についてお願いします。

ー創部当時は、頑張っていたが男子がなかなか強くなれなかった。女子は短大で創部して2年目で全日本に出場し、あの当時関東のOBの方が応援に来て下さったことも覚えています。これまで男子10回女子17回インカレ出場できたことは誇りに思っています。来年男子には高校時代の全日本クラスの学生が加入しますので、もう一花咲かそうと意気込んでいます。

これまでを振り返られましてひとことお願いします。

ークラブの他にもオリゼミや維新の道など通しての学生とのふれあいは忘れられない思い出です。

卒業生の人も私たちがいるうちに1度大学を訪ねてみてください。

ーありがとうございましたー



佐藤英雄 先生



実践教育活動の様子

とくだいインフラオナーショーン

平成26年度入学式挙行される

平成26年度入学式が4月2日日本学記念館で挙行されました。

本年度は経済学部・福祉情報学部合わせて233名の新入生を迎えました。式では学長から「自己実現に向け、貧欲かつ積極的に学生生活を送ってください」と祝辞が述べられました。

新入生を代表して経済学部ビジネス戦略学科野明日佳さんより「社会に貢献できる人間力を養い学生生活を送ります。」と宣誓がされました。

入学式終了後、校友会協賛による新入生歓迎の桜まつりが開催され、吹奏楽部の演奏や学生食堂でのお茶会また、学生食堂前広場では協力店会の新生活向け出店や、餅まきなどが行われました。



文部科学省補助事業
大学教育再生プログラム採択
全国94校の応募より選ばれる

「アクティブラーニング (Active Learning: AL)」という言葉が耳にされたことがあるでしょうか？

教員が学生に対し一方的に知識を伝達する旧来の講義スタイルとは異なり、学生から質問を引き出し、学生の能動的学習を取り込んだ学びの形態を総称してALと呼びます。

「教員が何を教えたか」ではなく

「学生が何をできるようにしたか」を基準とする

「学習者中心の新しい大学教育」が今、注目を浴びているのです。

現代は、社会の仕組み・価値観が大きく変容する時代です。

この変化の時代を生き抜き社会に貢献していく人材には、画一的な知識ではなく、処々の事態に遭遇して主体的に考え、そこに存在する問題を発見し解決していく能力、そして、生涯学び続ける力が求められます。

文部科学省は、今年度、総額10億円（平成26年度予算）からなる新たな補助事業「大学教育再生加速プログラム」(Acceleration Program for University Education Rebuilding: AP) を創設し、

「アクティブラーニング」

を含む三つのテーマの教育改革のアイデアを公募しました。特に

「アクティブラーニング」

は、採択件数9件を94校が競う最激戦区でしたが、本学はこのテーマに応募し「採択」を受けることができました。これにより、今年度から平成30年度までの5年間、総額約7000万円の補助金を受け、ALを中心とする大学改革を遂行していくことになりました。

言い換えれば、本学は、全国の諸大学の中から「アクティブラーニング推進のパイロット校」（94校）の一つとして、文科省のお墨付きを頂いたことになりました。

これから本学では様々なAL手法を授業へ取り込む授業計画の作成、新たな手法の開発と活用、それらによって達成された学習成果の測定、更にその測定結果に基づく手法の改善というPDCA (Plan (計画)・Do (実行)・Check (評価)・Act (改善)) を全額的に推進していく改革が、今始まるようになっています。

平成26年度福情報学会講演会
開催される。
11月3日（徳山大学三〇一教室）

今年度は、社会福祉法人夢のみずうみ村 理事長 藤原 茂氏に、「住み慣れた地域で「自分らしく生きること」を支援する「夢のみずうみ村の挑戦」というタイトルで講演をいただきました。

講演会では、高齢者が「自分らしく生きる」ためには、「自分の意思を持ち、実践する」ことが何より大切であるとして、その支援を様々な仕方で行うことを教えていただきました。肝心なことは、自分の意思が持てるように、その人にとっての「感激の素」を発見し振りかけることです。これは、高齢者支援のみならず、教育現場でも、一般企業でも適用できるポイントです。

なお、この講演会は、文部科学省が主催する「教育・文化週間」の取り組みの一環として開催し、山口県から補助金の支援をいただいで開催いたしました。

ポプラ祭で吹奏楽部OB演奏

ポプラ祭が11月1日・2日行われ、今年もいろいろな催しが行われました。吹奏楽部OB会では現役学生とジョイントで演奏を行いました。

本学吹奏楽部OBの中には当時全国大会へ出場した方や、今も現役のミュージシャンとして活躍されている方も多数おられ、現役学生には勉強の場ともなり、OBにとっては久しぶりの大学での演奏を通しての旧交を温める場として貴重な機会となりました。息の合ったとても素晴らし演奏に観客も魅了されました。



記念館での吹奏楽演奏



大学祭あの日あの時・・・

かつては現在の人工芝となったグラウンドをメイン会場に行われていました。写真は1984年秋 高橋真梨子さんを大学祭に招きグラウンド特設野外ステージに多くの人が集まっている様子です。この当時、短大（現在の11号館）の建物はなく、グラウンドから夕方には今回の表紙のような綺麗な夕景も楽しむことができました。

硬式野球部秋季中国リーグ優勝
代表決定戦を制し全国大会へ出場

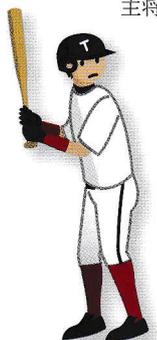
硬式野球部が中国リーグで優勝を果たし、10月25日に松山で行われた中四国地区の代表決定戦に臨みました。このゲームは四国リーグと広島六大学の代表との三地区代表で行われ、2勝したチームが明治神宮野球大会へコマを進めるといえるものです。試合は初戦広島国際学院大学に6対2で勝利、続く第2試合愛媛大学戦も2対1で勝利を収め、見事全国大会への出場を果たしました。全国大会へ行く直前、主将の高木達也君（経済学部3年久留米学園出身）に話を伺ったところ、

「チームがよくまとまっていて、いい状態にあると思います」「主将として常にひとつひとつのプレイをおろそかにしないよう、また選手全員が納得できるように心がけています」「これまで野球をやってきて全国大会への出場経験は初めてなので、ここまで続けてきて良かったと心から思っています」などと述べてくれました。とてもスポーツマンらしい爽やかさがあがり、且つ芯のある学生さんだと感じました。

全国大会では11月15日明治神宮野球場で明治大学と対戦し、0対9で敗れました。点差は離されましたが、全力で戦った本学野球部の健闘を讃えられましたが、経験を糧として今後の活躍に期待したいと思えます。



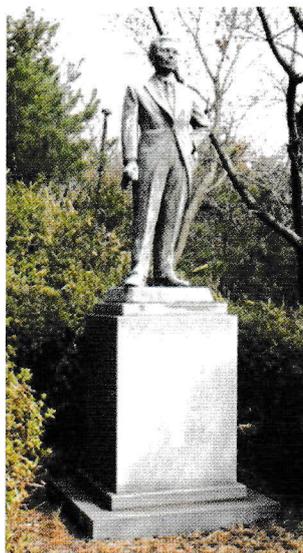
主将の高木君



応援にかけつけていただいた皆様にご声援ありがとうございました。

「トピックス」
大学内にある松下村塾模築

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」で長州が注目されているところですが、本学内には平成2年大学創立20周年を記念して、創立者高村坂彦先生の銅像とそのそばに松下村塾の模築が建立されました。松下村塾模築は萩にあるものの原寸大で、高村先生が吉田松陰を尊敬されており、その教育姿勢方針である「魂の教育」を後世に残すためモニュメントとして学内に建てられました。現在では時々講義で使用されたり、一般の方にも勉強会などで利用されています。模築の前に立つと、松陰の言葉にもじって、「徳山大学小なりと雖も誓って日本の大学のモデルとならん」と言われていた創立者の思いが今も響いてくるようです。



おたよりコーナー

一校友会にお寄せいただいたお便りをご紹介しますー

1期 下松市在住 武居 政修さん

第38号懐かしのキャンパスとても当時を思い出し、なつかしくまた、心新たになりました。ポプラ祭の後仮装行列があり徳山の市内を練り歩いた事を思い出します。今年はぜひポプラ祭へ行ってみます。よろしく

11期 三原市在住 真鍋 重夫さん

毎回、校友会誌を送付頂きありがとうございます。
第1期生の方は、すでに還暦を過ぎていると聞くと本当に長い歴史を感じさせられますね。今後も益々の徳大生及びOBの活躍を期待しています。

13期 広島市在住 新谷 宏治さん

事務局・編集スタッフの方いつも校友会誌の作成ご苦労様です。
私は、しばらく徳山に行っていませんが、街も人も変化しているのではないかとと思っています。学生時代お世話になった先生も定年退職され多少寂しい思いもありますが、その分、私も年齢を重ねてきた分、自分自身しっかりしていかななくてはと思っています。これからも微力ではありますが、頑張っていきたいと思っていますので、これからもよろしくお願ひいたします。

13期 山口市在住 中塚 誠さん

徳山大学校友会誌が届くのを楽しみにしており、届いたら隅から隅まで楽しく読ませて頂いております。私は13期生ですが、先生方や先輩方また後輩達の活躍さえている状況を知ると大変嬉しいです。こんなに沢山の方が活躍されている大学に入り卒業出来た事は心から誇りに思います。これからも、もっと活躍される方が沢山出ると思うし、益々大学が発展し、今以上に有名になる事を心の底からいつも祈っております。この度の、とくたい第38号で昭和51年頃の大学正門や城ヶ丘寮・楠寮の写真をみると私が通っていた頃の事を沢山思い出し、懐かしく涙が出ました。本当に徳山大学に行ってきたです。母校徳山大学最高。徳山大学バンザイです!!!

20期 神戸市在住 宮武 真樹さん

いつも会報を楽しみに読ませて頂いております。私は20期生ですが、大学4年間出身地を離れて大学生活を過ごした事をいつも懐かしく思いながら読んでおります。当時の学食の内容などが載っていると特に懐かしく思っております。私もちょうど先日4月1日で大学卒業、就職して20年が経ちました。これからも徳山大学の発展をお祈り申し上げます。

23期 広島市在住 前田 享さん

今回初めてしっかり読みました。表紙の桜の写真が懐かしく相変わらずきれいでしたよ。河村さんや長澤先生といった有名な方もいらっやると知り、驚きました。また徳山を訪れたいくなりました。

31期 呉市在住 猪野 龍介さん

坂本先生退職の知らせに驚き、時の流れの早さを改めて痛感しました。在学中坂本先生には大変お世話になり、ユニークな講義をいつも楽しみにしておりました。この場を借りて改めて御世話になりましたこと御礼申し上げます。

＊編集部より みなさま、温かいメッセージをいただき
どうもありがとうございました。



久しぶりに、大学を訪れた卒業生

脇田このみさん 森脇さつきさん 倉光宏嘉さん
(38期卒) (15期卒)

《プレゼントコーナー》～山口県名産品～



- ① 獺祭 純米大吟醸 磨き2割3分・・・1名様
日本を代表する銘柄となった岩国の日本酒です。
- ② 原田 特別純米酒 西都の雫・・・2名様
地元徳山の酒蔵のお酒です。
- ③ 杉本利平衛本店蒲鉾セット・・・3名様
宮内庁御用の白銀を含めた蒲鉾のセットです。

プレゼント希望の方

希望商品、氏名、年齢、住所、電話番号、会誌へのご意見・ご感想をお書き添えの上、

郵送の場合

〒745-8566
山口県周南市学園台 徳山大学校友会

Eメールの場合

kouyukai@tokuyama-u.ac.jp
ご送付ください。

※ご意見・ご感想は、誌上・HP上で掲載されることがありますので、予めご了承ください。また、個人情報については、事務連絡のみに使用させていただきます。

編集後記・お礼

校友会誌を楽しみにしていただいているという声を聞きとても励みとなっています。

今後も地道に充実した内容として参りたいと考えています。

一編集スタッフー

企画広報部長 野村哲也(20期) 中村道陽(11期)
藤田美恵(事務局)
印刷・デザイン 東洋印刷 協力 徳山大学